

8・浴衣で野外えっち

6から数分後。

主人公、モニカを人気がないところへ連れて行く。

場所は、お祭りをやっている神社の建物の裏。

二人は、建物の奥の、縁側のような、座れる場所に隠れている。

辺りには誰もいない。が、もし来たとしてもおかしくはない場所。

花火は遠くで聞こえる。

SE1…花火大会の環境音 【0〜5秒ほどまで流してSE2。その後、一度フェードアウトする】

まで流し続ける。花火大会会場からは離れている印象にするため、ボリュームは小さめにする】

SE2…主人公とモニカの足音 【トラック7のSE10と同じ音。0〜5秒ほどまで流して15のセリフ】

【なぜかこそこそ、小声で話す】

ず、ずいぶん。人気（ひとけ）のないところね。こんなところまできて何をするつもり？
駅はあっちよ？」

〈主人公〉

「モニカさん」

「ん？」

〈主人公〉

「状況を打破する手段はこれしかない。ここであつちしよう」

「え、ええーっ？」

〈主人公〉

「モニカの気持ちは非常にわかる。

私も自分で言っておいて、かなり『えーっ？』って思ってる」

「そりゃそうよ！ そんなの普通じゃないわよ。

【言いづらく、少し間が空く】

いくら、人のいないところとはいえ。こゝ。

そ、外よ……?」

〈主人公〉

「まあまずは私の話を聞いてほしい。

私なりに、モニカの犬化が止まる方法が具体的に何なのか考えたんだよ。

『えっちら治る』とはいうけど、それだけじゃ漠然とし過ぎてるからね。

思えば初めてした時、私にしてくれてる時は、モニカの身体に変化なかったけど。

私がしてあげて、モニカがイツちやったら、あっさり耳は人間のに戻ったよね。

つまりモニカが気持ちよくなれば……。

耳は引っ込んで人間モードに戻ると思うと私は考えている」

「冷静に分析しないで！ 恥ずかしいからあ！

【小さな声でごによごによ話す】

でもそうよね。いつも、私が気持ちよくなったら、身体は元に戻るものね。だから、今日もそうすればいいわよね。

私もっ。そう思うけどお……だけど、だけどお……」

しばし沈黙。

〈主人公〉

「このままなんとか誤魔化して家に戻って。

それからえっちするって方法もあるけど。

ここから家までちよつとあるし……。

この辺で何とかするにしても、多分今日は、ホテルとかも混んでる。

いつ入れるかわからなくて、かえって時間かかるかもと思うと、ちよつと怖いよね……。

というか正直に言うと。

今日のモニカいつもに増して可愛いから。今すぐいちゃいちゃしたいといえますか……。

だって、何かあって手遅れになったら怖いし……」

【怒っているようだが、本当は嬉しい】

はあー……っは 色々もつともらしい理由をつけておいて、本音はそれねっ？ 浴衣姿の

私が可愛いから、我慢できなくなっちゃったって訳ね……っは もう！ もう！ 変態っ…

……!」

〈主人公〉

「その通りです……。

だってモニカ、想像してた以上にその浴衣、似合うんだもん。
すごく可愛い。今日お祭りに来てる人の中でダントツで一番可愛い。
人ごみの中でモニカだけ輝いて見える」

【本当は嬉しい】

もお。呆れたわ。バカな人……！

【少し間を空けて。甘えた雰囲気で】

……でもね。我ながらバカだとは思うけど。
ちよっと嬉しくなってる自分が嫌あ……。

だって。本当はちよっと不安だったの。今日の私、ちゃんと。できてるのかなって。
人間の女の子として、あなたとちゃんと歩けるのかなって……。

【泣きそうになる】

だから、今可愛いつて言うなんて、ずるいっ……。

【少し間を空けて。甘えた雰囲気で】

ねえ。あなた、ちゃんとわかってる……？

私。あなたと恋人になれた今が、本当に幸せなの。

たとえあなたが。思ってたよりかなりえっちな人でもっ。

【話しながら、どんどんどキドキしてくる】

褒められたら飛び上がりそうな程嬉しいし。

い。一緒にいるだけで。こうやって手を繋いでるだけで……。
すぐドキドキっ、してるの！」

モニカ、主人公に抱きつく。

主人公の首に両手を回して、至近距離で話す。

SE3…モニカが主人公に抱きつく音 【すべて流す】

「ばかあ。もうあなた、やだあつ。

でも好きい。

これじゃ。私の方がバカだわっ……。

【キスする】

ん♥

もお……。

こんなところでなんて……。本当に本当に変態！

絶対この身体、治してくれなきゃ嫌なんだから。

絶対気持ちよくしてくれなきゃ嫌なんだからっ……♥

【20秒ほどキスする。ゆっくりした、甘いキス】

ちゅ♡んっ。ふっ……♡あ♡ん♡ちゅっ♡くちゅるっ……ちゅ♡ちゅ♡ん
うっ……ちゅっ♡ちゅ♡

〈主人公〉

「モニカ……可愛い……大好き……」

「また、そんなのずるいつ……」

あのねっ？ わかてるっ？

私の方があなたより、絶対絶対大好きなんだから……！

【キスする】

ん♡

【10秒ほどキスする。濃厚なキス】

ちゅっ♡ちゅぱっ♡くちゅ♡ちゅっ♡

【浴衣の中に手を入れられて、息をのむ】

はっ……♡ひゃほ

あっ……♡

【主人公が手を引っ込めそうになったので】

あっ……違うの……っ。やめてほしいんじゃないの。

嫌じゃ、ないの……っ」

モニカ、主人公の手を、自分の股間に導く。自分の股間を、浴衣越しに触らせる。

SE4

…モニカが主人公の手を、自分の股間に導く音 【すべて流す。『急に大きな音がした』という印象にならないように、ポリウムはかなり小さめにする】

「10秒ほど荒い呼吸」

はぁ、はぁ、はぁ……♡

【勇気を出して言う】

あ、のね……？

私。あなたの事あれだけひどく言っておいて。

【声が震える】

ほんと、この、中。

さっきからずっと。ぐちゅぐちゅに、なっちゃってるの……。

ほんと、はっぐっ。ドキドキ、してるのっ……！」

モニカ、自ら帯を解いて、浴衣を脱ぐ。

SE5…モニカが浴衣を脱ぐ音 【0～7秒ほどまで流して149のセリフ】

「あは……♥ 我ながら、どうかしてると思う、わ……。

自分からこんな事、しちゃうなんて。誰か、来るかもしれないのにつ……。

でもねっ？

私、あなたとだったら、えっちすぎる思い出もほしいっ……。

初めてきた、夏祭りで。こんな恥ずかしい事しちゃった思い出すらっ、ほしい……っ♥

【恥ずかしいので、主人公のせいにしたい】

ねえっ。こんなの全部。あなたがいけないのよ……？

あなたがいつも優しくて、甘えさせてくれて。いっぱい気持ちよくしてくれるからあ。

私犬だった頃よりずっとあなたの事好きになっちゃったの。

あなたとだったら何でもしたいのっ……！！

【早口で、甘えた声で】

だから触って？ 私の事、気持ちよくして？

身体がどうかともういいの。私今あなたに触ってほしいの。お願いっ」

SE6…主人公がモニカの下着に手を入れる音 【トラック5のSE12と同じ音。6～9

秒ほどまでを流す】

SE7…主人公がモニカの股間を愛撫する音 【178まで繰り返して流し、セリフの内容によ

って適宜スピードとボリュームを変える。詳しい指示はセリフ内の緑の網掛け】

※最初はボリュームは小さめ。0～1秒の最初の『くちゅ』のみ流して178まで一度止め、

171のセリフ。

【直接クリトリスを愛撫されて】

あ♥」

〈主人公〉

「ほんとだ。すっごく、ぐちゃぐちゃ……」

【観念して認める】

……でしょ？ 私も、あなたと同じ位。変態って、事ね……。

※まだボリュームは小さめ。続きを流し始める。1～2秒ごろの2回めの『くちゅ』を流してから181のセリフ。ここから先はSEを流し続ける。

【直接クリトリスを愛撫されて】

ああっ……♡ すごいつ……気持ちいいっ。ふあっ……♡
えへ。お外で声出しちゃ、いけないのに、出ちゃう……♡

【20秒ほど喘ぐ。押し殺そうとはするが、結局漏れてしまう】

ふああっ♡ ひゃっ♡ んんっ……♡ あ♡ ……あ♡ ん……ふっ♡ はあ……はあ……
…あ♡

ああ、ああ、あ♡ んんっ……♡

※ここから少しボリウムが大きくなる。

ああ。気持ちいいっ……♡

※ボリウムは「g」と同じだが、ここから少しスピードが上がる。

【20秒ほど喘ぐ。次第に声が大きくなり、達してしまう】

んんう、くっ♡ ああ♡ あ、あ、っ、あ♡ きもちいい……♡

【ここで達する】

ああああっ……♡

※ここでSE7終わり

【10秒ほどかけて呼吸を整える】

はあ、はあ、はあ……」

〈主人公〉

「モニカ……気持ちよかった……？」

【しばらく間を空けてから】

うんっ……気持ちよかったあ。

【少し間を空けてから。軽くキスする】

ちゅ♡♡ 好き♡

しばらく、環境音のみが続く。その後、一度フェードアウトする。

SE8…外の環境音【花火大会はすでに終了。『虫がうるさい』という印象にならないように、ボリウムは小さめにする】

数十分後。主人公とモニカ、少し移動して別の場所におり、抱き合ったままボーっとしている。

気が付くと、花火大会は終わっている。

モニカ、自分が原因とはいえ、がつくりする。

「ああ。ろくに見ないうちに花火が終わってしまったわ……」

主人公、仕方のない事とはいえ、モニカに申し訳なくなる。

モニカの頭を撫で『とりあえず近所で他に花火大会ないか調べてみよう』と考えつつ、近
日に手ごろな花火大会があるかどうかはわからない。

ひとまず『来年も一緒に来よう』と励ます。

SE9…主人公がモニカの頭を撫でる音 【トラック6のSE3などと同じ音。0〜4秒ほ
どまでの2回分の『ぼん、ぼん』を流す】

〈主人公〉

「あはは……。今回は確かに残念だったけど。
また来年もあるよ。来年も一緒に来よう？」

【「単純なので切り替えが早い」】

……あ。そっか。そうよね！

【「主人公から『来年』という言葉が出たのが嬉しい」】
また来年、来ればいいわよね！ えへへ」

しかしモニカ『来年』という言葉が出た事で、とある事を思い出す。
昨日例の『お姉さん』から言われた話である。

【「少し間を空けてから切り出す」】

あのね……。今日はこんな事になっちゃったけど。昨日、例のお姉さんから連絡があつて。
もうすぐ私、身体が安定して。完全に人間になれるんですって」

〈主人公〉

「それはつまり……！」

「つまり。今日みたいな事はもう起きなくなるって訳」

モニカ、そうなれば主人公に迷惑をかける事はもうなくなるし、喜ばしいのはわかってい
るのだが、少し不安になる。

その必要がなくなってしまったら、主人公はもう自分とえっちしてくれなくなるのでは
……。と思ってしまう。

〈主人公〉

「そうなんだ！ やったね！ これで一安心だ！

……モニカ？ どうしたの？ なんだか不安そうだけど……」

【不安そうに】

でも。あの……。ねえ。私が完全に人の身体になれても。

今日みたいに……またしてくれる？

あのでも！ 外でじゃっ！ ないけどっ！」

〈主人公〉

「えい 当然だよ！ もうしないのい そんなのいやなんだけど！」

モニカ、主人公の回答にホッとする。

同時に主人公をつくづくスケベな人だと思うが、それは自分も同じなので『まあいいか』と思う。

「本当……？ よかった♡

えへへ。安心したわ！ そうよね。私達付き合ってるんだものね！

【甘える】

ね。ちゅーして？

【キスする】

ちゅ♡

モニカ、不安に思っていた事も解決し、いよいよホッとする。

が、そこでふと『なんか寒いな？』と気づく。

それもそうである。あれだけ苦労して着た浴衣を、自分は脱いってしまったからである。

【「うーで、ハッ、と気づく」

ところで私。ノリで浴衣を脱いってしまった訳だけど。

ちゃんと着て帰れるかしら？」

〈主人公〉

「あっ」

【『『やっぱりこの人忘れてた！』とあきれる】

『あっ』じゃないわよう！ やっぱ何も考えてなかったでしょう！

まあいいわ！　また二人で頑張つて。

私の事。このお祭りで一番可愛い子にしてね！」

しばらく環境音。やがてフェードアウトする。